



会 長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 齊
副 会 長 橋本 昭一 幹 事 松本 剛典
クラブ奉仕 橋本 昭一 会 計 妻神 和憲
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫
社会奉仕 岡崎 孝文 副 幹 事 小田山紀暢
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹
同 委 員 妻神 和憲 同 委 員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ
世界に希望を生み出そう 和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

5 月 は 青 少 年 奉 仕 月 間 で す
第 3 3 1 3 回 例 会 2 0 2 4 . 5 . 1 5

会 長 要 件 紺野 広 会 長



先週は熊谷雄一八戸市長がいらっしゃいました。我々ロータリアンは、クラブとしては政治に関われません。けれども、選挙が終わって、自治体を引っ張る行政の長、市長が決まった以上、選挙戦の柵を捨てて我々市民の代表として、そして、其の方を八戸ロータリークラブの名誉会員に迎えた以上、我がクラブの御仲間として、下支え、応援をして参りましょう。という御話しを致しました。青年会議所は街を作る事を目的として居ると伺った事が有ります。一方、ロータリーには更に、社会を動かす程の大きな企業の方や、他人の人生に大きな影響を及ぼし得る業種の方々が多数集まっています。雇用を守る、社会秩序を維持する事で、街を、地域を下支えする。ロータリーは、そういう職業奉仕の団体で有ります。熊谷市長は、遣りたい事が一杯有り、其々が大きい案件の様ですので、中々重み付けをして優先順位を付けるのが大変、と言う処が有るのだろうと、御話しを伺って

居て感じました。そう言う中、村上壽治先生から戴いた御提案は非常に魅力的でした。新婚旅行、結婚式の費用を行政が持て、という御意見でしたが、其れ位遣ら無いと、人口減少が必然の未来として描かれて居る今、地域の行く末を変えられ無いのだろうなという気が、私もして居ります。そう言う一步を踏み出し辛い処で、背中を押して挙げるのも、我々の役目なのかも知れません。そして、意見を述べる、下支えをする、そう言う行為は、我々が維持して居る雇用を、街を、翻って我々の企業体を、守る事にも繋がって行くのではと考えます。

市長の御話しからは、前記の様な所感を抱きましたが、最終例会には、今度は県の代表、宮下宗一郎知事が来て下さり、30分弱の卓話を頂戴出来る事に成りました。彼は対話を重視して、聞いた事、訴えを出来るだけ施策に反映させようと言う真摯な態度の元、手腕を発揮して居られます。新聞に出ない日が無い位御忙しい様で、御呼びするのが申し訳無い気が致しましたが、折角の機会ですので、県民の一人として、彼に何等かのアドバイスを、皆様からして挙げて戴きたいと思ひます。短

い時間の滞在とは成りますが、懇親会にも出て下さいます。御話し出来る機会も少しでは有りますが作りましたので、県の未来に向け、意見を交わして戴ければと思っております。

私の会長の任期は後少しと成りましたが、市との「大規模災害時における相談業務の支援協力に関する協定」に関しては、未だ調印しただけと言う状態のままです。此の企画当初から色々動いて戴いた高谷さんと一緒に、今週の金曜日に市役所に行って、災害時の実働に関して、もう少し踏み込んで意見交換をして参りたいと思っております。そして、最終例会の前の週には、八戸市危機管理部次長から卓話を頂く事にして居ります。今日以降の外部卓話予定は以上と成ります。その他、皆様からの卓話、御話しも私の楽しみで有ります。今日も御二方から卓話を戴ける事に成っております。宜しく御願ひ致します。

表彰：米山功労者感謝状贈呈 マルチ③
鶴飼寿栄さん

幹事報告 松本 剛典 幹事



今日、皆さんにご案内を差し上げておりますが、地区より地区女性会員の集いをお送りしています。日時は6月22日 場所は八戸プラザホテル 時間？ 会費？ 女性会員の集いですが、男性会員の方でも大丈夫ですので、申し込みをお願いします。

委員会報告

親睦・会場委員会 増田 敏委員長



○ニコニコボックスの報告
・誕生祝 鈴木隆広さん
橋本八右衛門さん
先週末のクラブ協議会に参加された皆様ありがとうございます。

道尻誠助・赤澤栄治・佐々木泰宏 }
熊谷清一・山村和芳・今 彰夫 } ニコニコ
夏川戸 齊・小井田和哉 } デー
石橋信雄・渡辺 孝さん }

ロータリーの友委員会 松林拓司委員長



ロータリーの友5月号の紹介をします。当クラブの活動が紹介されていますので、紹介します。2月7日に実施したポーランドの右近彩葉さんとZOOMでつないで卓話をいただいた記事が載っています。卓話を依頼した経緯としてウクライナ難民との人たちの力になりたいという高校生の右近さんがポーランドに行ってボランティア活動をした記事がロータリーの友に1年前の2023年5月に掲載になり、その後、大阪ロータリークラブの支援で青少年交換留学生としてポーランドに再び渡って活動を続けているという記事でした。

そのタイミングで右近さんに大阪ロータリークラブを通してアクセスしたという経緯があります。卓話の内容は最初のボランティア活動の経験、留学生活での学びと感じたこと、現地の状況、ポーランドの大学への進学を見据えて、これからも戦火で家族を亡くした子どもたちを支える活動をしていきたいという思いを聞きました。当クラブとしても可能な支援をしていきたい、ということでまとめられています。デーリー東北の上村奉樹さんが投稿記事を担当くださいました。

能登半島地震関係の各地の支援活動の輪。むつのお話です。「1月28日むつ中央RC、むつ大畑RC、むつ工業高インターアクトクラブが合同で募金活動を実施。総勢約20名が市内の数か所で、多くの市民から温かい声がけと寄付金をいただき、能登半島の厳しい状況に心を寄せる皆様の善意に感動しました。」苦生小学校1年生の松本のののかちゃんは募金活動を見かけて一旦家に帰宅し、貯金箱を携えて戻ってきてすぐに募金箱に入れてくれました。この行為にさすがに涙を禁じ得ませんでした。被災地の皆さま、頑張ってください。

トップの特集は青少年奉仕です。青少年の育成を支援することというタイトルで、ロータリー青少年指導RYLAを紹介しています。RYLAは夏川戸さんが参加を呼びかけていますが、築館ガバナーと紺野会長が講師を務め、6月8日～9日に東北町の原燃テクノロジーセンターで開催されます。冊子では水戸と大阪で行われた内容、参加者とロータリアンの声がタイムスケジュールに沿って紹介されている他、青少年と適切な距離を知りましょうということ、具体的にこれは容認されている、これはだめですよという事例が紹介されています。

例えば、容認される身体的な接触としては肩や背中をポンとたたくのはOK、握手するのもOK。ただ体全体を接触させてハグするのはNG。膝の上に座ったりするのもNGなど具体的に書かれています。他の成人による事前の承諾なく一人の青少年を自動車に同乗させるのはNGなど具体的なことが書かれています。今後こういったプログラムに関わるよう場合には事前にチェックする必要があるかと思います。

特集は「サバ缶宇宙へ行く」。サバに反応してしまいましたが、福井県のお話でした。高校の先生が執筆者でひじょうに面白い内容でした。13年前の2001年、日本初の水産高校ということで福井県の小浜水産高校に着任した小坂先生。ところが行ったときには十年後には廃校になるといううわさで学校は荒れ放題だった。先生はまず自分が漁業の現場に出て行って仕事を手伝って、漁業者と信頼関係を築き、次は生徒を連れて行ったそうです。教室では居眠りばかりしている生徒が現場ではよく働き、生き生きして課題研究に取り組む、ということが成果として現れた。

具体的には網に入るエチゼンクラゲのコラーゲンから作ったサクサククッキーはものすごく売れたそうです。廃棄される魚を使った雑魚揚げはんぺん、小学校の給食メニューの開発、ホテルと缶詰会社と連携した鯖缶カレーなどに取り組んだということです。そういった活動の際に、ロータリークラブ、地

域の企業へ相談に出向いて協力を得たことで、ロータリーとの関りが生まれたそうです。

そのように学校が変わり始めたところで、生徒の方から宇宙食の話が出て、HACCPを取得し、「サバ街道 届け国際宇宙ステーション」と題した研究が始まり、県はそうした学校の動きから小浜水産高校は廃校ではなく“閉校”という形にして、県立若狭高校に海洋科学科として2013年に統合されたということです。実際に高校生のサバ缶は国際宇宙ステーションで食されたということです。

かつては若狭でもサバは大量に獲れたそうですが、今はこちら同様、水揚げはほとんどないということで、産学官連携で生まれた「酔っ払いサバ」を材料に使って、それでも宇宙食に合格するために試行錯誤が繰り返されました。酔っ払いサバは酒粕を餌にして、小浜の海で養殖したサバだそうです。学校では今、海洋プラスチックごみの対策に取り組んでいるそうです。これを読んだときに、人口減少、少子化は確かにピンチかも知れませんが、一方でこういった地域の連携や協力が生まれるチャンスであり、その橋渡しや支援にロータリークラブの活躍の場があるのだろうということが伝わってきました。

特集「パキスタンのポリオ最前線」。野生型ポリオ根絶まであと2か国となっていて、それがパキスタンとアフガニスタンです。今回は「もっと知りたいパキスタン」ということで現地情報やポリオの取り組みを紹介しています。パキスタンはインドの西側、正式名称はパキスタンイスラム共和国です。国土は日本の約2倍、人口は約2億4,000万人で世界のランキング5位の大きな国です。パキスタンのソウルフードはカレーですが、カレーのことはパキスタン語で「カライ」というそうです。

肝心のポリオ対策は1994年、30年前に根絶プログラムを進めて、昨年の野生型ポリオウイルスI型の症例報告は6件。90年初頭は20,000件だったことを考えると根絶目前と言えるそうです。一方で15才以上の識字率は58%と低いこともあり、なかなかワクチン接

種の取り組みに苦労が多かったということです。写真の女性たちはワクチン接種する担当の保健医の方々です。今は1000人の宗教学者がワクチン接種を支援する活動を行って、接種率が高まっているということです。

こぼれ話として、パキスタン人の移動の重要な足はバスですが、近距離移動のものはスズキ、ダットサンと呼ばれているそうです。

トラックの荷台を改造したバスにしたものはマツダと呼ばれているそうです。今回はパキスタンの紹介の第1回目、第2回は日本とパキスタンの関係、有志によるポリオ根絶活動に取り組むチームポリオジャパン関係者のコメントなどを中心に報告するそうです。

鈴木隆広さん（NTT東日本）



新 会 員 卓 話



弊社のグループでやっているアイオン（IOWN）という構想について簡単にご説明させていただきます。

最初に自己紹介をさせていただきます。NTT東日本の鈴木と申します。青森支店ビジネスイノベーション部第3地域基盤ビジネスグループ長ということで、10月に着任しています。出身は宮城県気仙沼市で、今家族は仙台にいます。過去の居住時は大学の時に宇都宮におりまして、わたしは結構転動しています。東京の小平市（最寄駅は西武新宿線小川、花小金井）、さいたま市見沼区（最寄駅は野田線の七里）に住んでいました。もしかしたら同じような所に住んでおられた方がいたらぜひ昔の話ができればと思っています。

趣味はサッカーと競馬、ジョギング。サッカーはベガルタの応援にも行っていましたが、八戸ではヴァンラーレの試合にも2試合ほど行かせていただきました。満員になったアントラーズの試合にも行きました。競馬も長らくやっています。収支は去年や今年はトントンくらいです。

ジョギングもちょっとやっています。今年の年男の抱負でも話をしましたが、フルマラソンで3時間半を切りたい、ハーフで90分を切りたいという話をしました。実際には4月21日に青森のさくらマラソンのフルマラソンに出ましたが、今年は雪が多く練習ができなかったので3時間57分のタイムでした。5月

11日には仙台ハーフマラソンに出ましたが、暑さもあって1時間40分でした。今週末の八戸のウミネコマラソンも参加させて頂こうと思っています。デーリーの上村さんにもお話しましたが、デーリーさんの何かの力をもってわたしのタイムをごまかしていただけるとありがたいかと思っています。あと1回、2回くらい走れると思いますので、何とか頑張っていきたいと思っています。

まずは通信の話です。通信の技術の動向ですが、1980年代だと昔のダイヤル式の黒電話だったり、プッシュもI S E M。電話がだいぶ進化して行って、その後、携帯になったり、スマホになったりして、今でいうとNTTのメインの仕事は電話というよりはインターネットみたいなものになってきています。さらに今後はAIやそういったものをメインに進めていくような形になっています。

今回のIOWNは大きなデータを流す、省電力みたいなものを掲げて、今後世界をよくしていきましょう、というものをコンセプトにしています。昔て言うところ、パソコンが一家に一台あったり、携帯電話で電話するようなものだったのですが、今だとスマホとかタブレットで動画を見たりしますし、IoTとか生成AIもそうですが、ネットワークを使って監視したり、精査、スマートウォッチをつけて体調管理をしたりみたいなこともあるので、だいぶ通信は使っている実感はあると思います。

リアルに通信の状況はどうなっているかと

いうと、テレワークもあったのでだいぶ通信料が上がっています。テレワークはだいぶコロナのときに流行り出して、その時に自宅でネットフリックス、アマゾンプライムを契約していただいて、いろんな動画を見ていることもあって、5年で3倍になっている状況になっています。ネットワークを使っているというところが背景になっているとご理解いただければありがたいと思っています。

ではIOWNは何なの？という話ですが、IOWNはInnovative Optical and Wireless Network ということで光を中心にしたネットワークです。主要技術はオールフォトンクスということで、ぜんぶ光でやれるようなものになっています。それによってデジタルツインもできます。

動画がありますので、動画を見ながら説明を聞いていただければと思います。「社会のデジタル化に伴い、通信ネットワークの需要が高まり、世界のITネットワークが爆発的に増加するように、2030年には30倍以上、2050年には4000倍以上に達します。それに伴い、世界のネットワーク消費電力は2030年には5倍以上、2050年には530倍以上に達します。現在の総電力供給量の9倍の電力が通信ネットワークだけで使われることとなります。この難題をNTTグループがすすめるIOWNが解決します。

IOWNのオールフォトンネットワークは光電融合技術により電力消費量を1/100に削減することができます。加えて125倍の大容量、1/200の低遅延が新たなネットワークサービスを実現します。」

……カーボンニュートラルも含めてやっていきたいというのがコンセプトになっています。

多くのお客様にご利用いただかなければ目標は達成されません。そこでNTTコムウェアはIOWNの価値をご理解いただき、ビジネスにご活用いただくため2021年度からIOWNベストネットに取り組んでいます。ダークファイバーを用いた独自のAPM環境を構築しています。そこで将来の保守運用の

検証やAPMの高速低遅延を活かしたユースケースの開発および実証を実施しています。ここからはXR卓球、データセンターのリモートメンテナンス、2つのユースケースを紹介します。」

XR卓球はAPMの大容量、低遅延を体感できることを目的に開発し、遠隔地のプレーヤーとリアルな映像で対戦することを可能にしました。次はIOWNが実現したXR卓球のデモをご覧ください。

……ゲームをやっているっぽいのですが、卓球とまったく違和感がない。

一方、データセンターのリモートメンテナンスはIOWNの特徴であるデジタルツインコンピューティングとロボットを活用した次世代の沿革保守を実証するために開発しました。先進国では少子高齢化が進み、労働者不足が社会課題となっています。NTTグループではデータセンターを24時間保守する多くの技術者を必要としており、省人化が求められています。リモートメンテナンスではデータセンターの装置の配置、運用状態を3次元のデジタルツイン上に再現することで、現地に見える化を実現しています。

警報発生などで現地の確認が必要なときはデジタルツインと連携したロボットが該当装置まで自動で移動します。こちらはデジタルツインからロボットを操作し、該当装置の映像を確認しています。IOWNなのでスムーズに操作することができます。また高精細な画像が得られるため、AI画像認識を活用したランク点検が実現できます。リモートメンテナンスはプラント、工場などの幅広い業種でご活用いただけます。

IOWNベストネットを多くの皆様にお伝えするため、説明会、展示会にも積極的に取り組んでいます。

……光だとなぜいいのか。元々の機械だと光で来たものを機器に入れて電気信号に変えてもう一回光で送る、みたいなものがありましたが、それをすべて光でやっているのですし、ロスもないですし、電気も節約できます。省電力で電力効率100倍ですし、当然光ですので、

伝送容量も当然多いですし、遅延も少ないです。

では何ができるのか。NTTグループでやっている事例を簡単にご説明します。遠隔手術みたいなものもできます。遅延もないですし、きちんとした画像や音声も使えるので、遠隔手術できるような実証をしたり。コンサート、リモート音楽祭ということで東京と大阪ともう1か所の3か所をつないでリアルタイムにオーケストラを演奏させたという事例もあります。普通のパターンではEスポーツは遅延もないのでやっています。こういった事例も含めながら、地域に役立てたり、省電力も含めてNTTグループとして何が出来るかを検討していこうと思っています。

松林拓司さん



61才、青森市出身です。社歴は記者生活20年、新町ビルを作る仕事を中心に10年、新町ビルができたあとは事業局長でイベントをやり、東京、大阪支社長を3年をやり、今八戸です。八戸は単身赴任中で、自宅は青森です。妻と長男と愛犬が暮らしていて、次男は仙台です。2、3週間に1回青森に帰りますが、愛犬だけが犬大歓迎してくれて飛びついてきて顔をペロペロとなめられています。趣味はゴルフ、スポーツ観戦、読書。この間、水曜会デビューしました。スポーツ観戦は井上尚弥防衛戦を興奮して見ていました。KO勝ち。今楽しみにしているのは明日から始まるバレーボールネーションズリーグです。

わたしは高橋竹山さんの本を書いていますので、それを少し話しするのがいいのかな。ただ話をするだけではと竹山さんの演奏をご用意しました。取材で入手した音源で、レコードにもCDにもなっていないもので、1964年、今から60年前の演奏です。竹山さん54才のときの演奏を用意しました。説明の後に聞いていただきたいと思います。

竹山さんをご存じの通りほとんど視力を無くして、学校へもまったく行かないで14才でボサマに弟子入りして2年で独立して、16才

から門付け生活。門付け生活が16才から15年以上続きますが、これが門付けの観察昭和16年 高橋定蔵が本名です。大きさは折りたたむとほぼ名刺サイズで、常に持ち歩いていたものです。唄会と呼ばれるものの写真です。竹山さんは基本的にボサマ、門付けに一人で歩いているのですが、声がかかれば唄会にも参加して稼いでいた。ただ竹山さんはこのような団体行動はあまり好まず、たまにしか参加しなかったという話です。

戦争が激しくなってくると三味線を持っているだけで非国民扱いをされて、門付けを断念しました。奥さんのなよさんはイタコとしてひじょうに信頼が厚く、生活力があつた方なので、彼女の兄さんが鍼灸師をやっていたということで、その説得によって八戸盲啞学校に1944年に入学します。34才で学校入学ということで、終戦をはさんで5年間で鍼灸マッサージの免許を取ります。余談ですが、学校では周りはみな十代の子どもたちだったので、生徒なので“じっちゃ”と呼ばれていたそうです。

戦争が終わって平内に帰ってきて鍼灸院を開きましたが、すぐに津軽民謡の神様、日本民謡初代名人の成田雲竹さんから伴奏者にならないかということで声がかかります。それだけ腕が良かったということです。結局ボサマだけして、なぜそんなにうまかったのか、多くの三味線弾きがいる中でなぜ竹山さんに声がかかったのかは疑問としてあると思いますけれども、そういうことを本の中で解き明かしていています。ご興味のある方は後で読んでいただければと思います。

伴奏者になったのは40才くらいで、15年ほど続きます。雲竹さんがつがる市（旧森田村）の出身で、民謡支部が全国に30か所、6,000人の弟子を持ってアジア各地を回るなどして民謡を作り、民謡の基礎を作った方です。

1953年（昭和28年）に青森放送ラジオ放送が始まります。その中の民謡教室という番組が大人気になりまして、毎週雲竹さんが民謡を一曲紹介して、その民謡の背景などを説明

して唄い方などを指導する構成です。録音のない時代なので当然生放送。民謡で当時伴奏がついているのはじょんから、よされ、あいや、さんさがりの有名なものだけでしたので、それ以外はみな手拍子で民謡は謡われていました。ところがラジオでやるということになると伴奏が欲しいというので、雲竹さんからこの曲に伴奏を付けてこいと竹山さんが命じられて、それで考えた。竹山さんが伴奏を付けた民謡はだいたい70曲～80曲あります。あまり知られていませんが、竹山さんの大きな功績の一つということになっています。伴奏の創作も彼の芸術性の秘密の部分です。

雲竹さんと竹山さんの写っている写真をみるだけで関係だけでもわかると思いますが、それ以外でもこの時はまだ歌い手が主役、伴奏者はあくまで脇役ということで、端的に言えば例えばギヤラも100円貰えば、伴奏者は20円。竹山さんはいくらうまくてもそういう格差がありました。

大きな転機は1963年に訪れます。写真がレコードジャケットになっていますが、このレコードがなぜ出たかという、キングレコードから発売されています。入社2年目の若いディレクターの斎藤耕一さんが雲竹さんの津軽民謡のレコードを聴いていて、雲竹さんの声じゃなくて伴奏者の竹山さんの三味線の音色にびっくりしてしまいます。この斎藤耕一さんは家が邦楽、雅楽や浄瑠璃などの古典音楽の家庭の方で、それが嫌で大学・高校ではジャズやロックを聞きまくって、あるいは演奏していた人です。仕事でキングレコードに入って民謡を聴き漁っていた。その時に竹山さんの伴奏の三味線の音色に惹かれてしまった。

三味線のレコードの企画を会社に出したけれど、OKが出るはずもありません。そんなレコードを誰が買う、誰が聴くんだという話でした。それで彼は親から借金をして、平内に来てレコーディングの承諾を雲竹さんと竹山さんにとって、東京のスタジオで録音して、そこまで行くと会社もOKを出してレコード化された。それが1963年です。タイトルは

「津軽三味線」。ここで初めて津軽三味線の独奏としてのネーミングがここで生まれます。当時の民謡のジャンルのレコードでは破格の70,000枚を売り上げました。

これから聞いていただくのは、その翌年、仙台労音という舞台の演奏です。このレコードが出た次の年。労音は勤労者の芸術鑑賞団体で全国にありました。世界のクラシック、ジャズ、タンゴ、フラメンコ、ロシア民謡などを招いて鑑賞する団体ですが、この頃になると日本文化の良さもあるはずだということ、日本独自の根源的な音楽を発掘しようという団体の事務局の方々の企画。

その第2回「日本の歌、みちのくの歌」ということで仙台と塩釜の2か所で公演が組まれました。そこで招かれたのが成田雲竹さんと伴奏の竹山さん。宮城県の民謡歌手と宮城の民族歌舞団のほうねん座が一緒でした。この写真は竹山さんの聞いていただく演奏の翌年かその翌年だと思います。左側は須藤雲栄さんという雲竹さんのお弟子さんでRABの民謡女王。竹山さん、武藤桃しゅうさんの楽屋での写真があります。結局、今日聞いていただく演奏ですが、実は雲竹さんの引退の舞台でもありました。雲竹さんは室蘭にお子さんがいて、その舞台を最後にそっちに引っ越すということを舞台の上でもしゃべっています。またその舞台が竹山さんが羽ばたく契機になった舞台というのも、ひじょうに因縁的だったと思っています。

実際に雲竹さんは労音から声がかかったけれども、どんなところかわからないが、ほうねん座や他の民謡歌手も出るから行ってみるべしという感じで、仙台労音の企画に乗った。竹山さんの独奏は当然、雲竹さんに当然配慮して、事前には知らせていません。もちろん竹山さんにも知らされていません。内緒で一幕後の休憩の後の二幕の頭のところにプログラムとして組み込んでおいて、当日になって二人を説得したということです。

先ほど見ていただいた「津軽三味線」というレコードを聴いた、仙台労音の事務局の三浦さんは感動して何とかこれを組み入れられ

ないかという策を練って、そのプログラムに組み込んだ意図を説得した。竹山さんも今までは当然民謡好きの人の前で伴奏しかしたことないのに、若い人たちがたくさん入っている大きなステージで、自分の演奏なんか聞いてもらえるはずがないと固辞したのですが、三浦さんはみんな楽しみに待っていたんだということで説得して実現した舞台になります。カットからのダビングなので、あまり録音状態は良くないのですが、利き手の驚きや感動が伝わってきます。後に「即興曲岩木」の名前で演奏されるものの原曲みたいなものです。弾き始める前にちょっと気弱な声のトーンや演奏の最後のほうに観客の反応の良さ、弾くのが楽しくてたまらないという感じで、弾きながらちょっと笑い声が出ているのがわかります。

それで竹山さんの演奏は口コミで労音の中で爆発的に広まって行って、いろんなところで竹山さんの演奏が組み込まれていきます。沖縄ジャンジャン、渋谷のジャンジャンが大元ですが、沖縄への思い入れもありました。1980年開館、1993年閉館ですが、開幕公演も閉幕公演も竹山さんが務めました。ご覧の通り立ち見もたくさん。120~130人入るといったいになるような、酸欠を起しそうな空間です。そのジャンジャンでも1973年に渋谷のジャンジャンから竹山さんは爆発的にヒットしますが、だいたいその時に竹山さんは63才です。そこから20年くらい一線で活動を続けます。多い年は年間200ステージくらいこなした、超人的なスケジュールで舞台に立ち続けた人です。国内だけでなくアメリカにも行きましたし、世界に認められた演奏家ということになりました。

一般聴衆の前で初めて披露された、仙台労音1964年の演奏をお楽しみください。

講評：紺野会長

松林さん、有難う御座いました。ライフワークの様な物が有るのは、少し羨ましいです。父親が好きで良く高橋竹山のレコードを

聴いて居たのを思い出しました。そろそろ父の一周忌と成りますが、クラブの皆様は遥々盛岡まで父の葬儀の為に御越し戴いた記憶もよみがえって参りました。其の際の、皆様からの多数の弔電、供花、御香典、誠に有難う御座いました。改めて、御礼を申し上げます。

鈴木さん、此れからは、ベガルタ仙台では無く、ヴァンラーレ八戸の応援を宜しく御願ひ致します。Innovative Optical and Wireless Network、N T Tが、日々進歩を求め、我々の生活の基盤を作って下さっている事、改めて勉強させて戴きました。有難う御座います。

年度内、八戸ロータリークラブ会員数目標70人を標榜してから、様々な会員から多数の新会員候補者の御紹介を戴いて居ります。御共感戴いた事、本当に有難いと感じて居ります。一方で、私の八戸赤十字病院院長の定年は、70才ですので、後9年弱はクラブに居ると思ひますし、其の後も、在籍出来ればとも思ひて居ります。ですので、定年の時に、楽しい、居続けたいと思えるクラブで有る様に願ひて居りますし、そう言うクラブを、皆様と作って行きたいものだと考えて居ります。居続けたいと思えるクラブを作る為には、単純に会員数を増やす事のみには捉われず、皆様御一人御一人が、御自身が良く御存知の、楽しい、しっかりした御付き合いの出来る方を御紹介戴く事が大事だと思ひます。一寸した不協和音が、一寸した信頼を損なう行為が、例会から会員の足を遠のかせます。「和而不同」。意見は言い合っても、最後には同じ方向を向ける仲で有りたいものです。私は先輩方の御話しを聞くのが本当に好きです。御若い方々をからかうのも、からかわれるのも好きです。此のクラブが此れからも、年長の方、若い方、其々にとって、居心地の良い、楽しく足を向けたく成る場所であり続けて欲しいと、心から願ひて居ります。新会員入会は、今迄通り、一人ずつ、全会員同意の下で進めて行く、で良い様に思ひます。

| 出席報告 | | | | | | 出席委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------|-----------------|--------|--|-------|--|-------|--|-------|--|------------|--|-----|--|--------|--|----|--|-----|--|-----|--|
| 第3313回例会（5月15日） | | | 第3311回例会（4月24日） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 出席率 | | 55.6% | | 出席率 | | 60.9% | | 修正出席率 | | 67.2% | | | | | | | | | | | | | |
| 総会員数 | | 65名 | | 出席数 | | 35名 | | 総会員数 | | 65名 | | メイクアップした人数 | | 4名 | | | | | | | | | |
| 出席義務会員 | | 63名 | | 出席免除会員 | | 1名 | | 欠席数 | | 28名 | | 出席義務会員 | | 64名 | | 出席免除会員 | | 1名 | | 欠席数 | | 21名 | |